



No.2

視覚障害者のための遠隔作業支援サービス

(筑波大学)岡村 柁紀, 泉和哉, 西村千恵子, (筑波技術大学)高橋和巳

提案の背景

視覚障害者支援として画像認識して物体名を読み上げる「Orcam Myeye」や「Seeing AI」といったサービスは存在しているが、実際に普及しているものは少ない。原因として、視覚障害者のニーズが十分に反映されていない・そもそも知られていない・実環境での検証が十分でない等が挙げられる。つくば市においては、筑波技術大学(視覚障害を持つ方のための国立大学)があり、支援の重要性とともに、支援システム活用のロールモデルとなるポテンシャルが備わっている。我々は、視覚障害者を支援するアプリケーションの開発と共に支援コミュニティの醸成を行なっていくことでつくば市とアクセシブルな街を作る

トライアル概要

本提案では、視覚障害者の買い物及び作業を遠隔から支援するアプリケーションの検証をつくば市と共同で行う。本検証では、市役所やショッピングモールなどの実環境にて支援システムが視覚障害者にとって有益であるかの効果検証及び持続可能であるかどうかの調査を目的とする。我々は、ウェアラブルデバイスとして首掛けデバイス「Thinklet」を採用し、このデバイス上で動作する遠隔作業支援アプリケーションの開発を行なっている。主機能としては、LTE/Wifi経由でのビデオ通話を用いた道案内、商品探索支援がある。また、遠隔作業支援者をサポートするための画像認識機能も組み込む予定である。



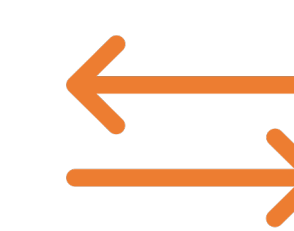
大型ショッピングモール
にほとんど行けない
目的のお店が見つからない



夜に外出するのは不安だ
暗くて危険が多い



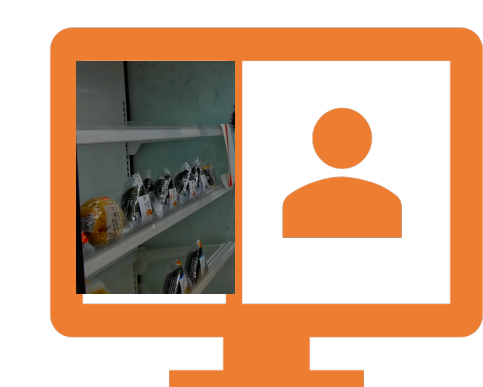
視覚障害者



ビデオ通話



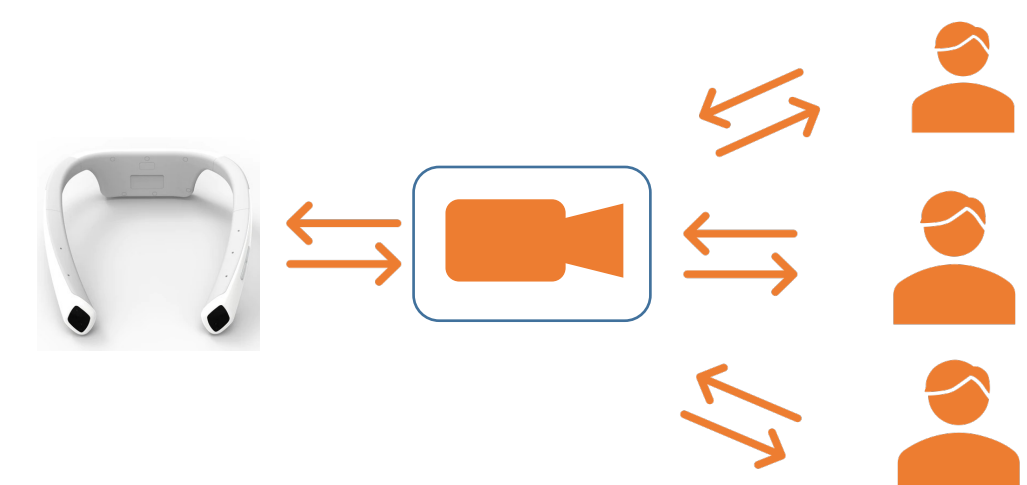
システム設計



遠隔からアドバイス



支援コミュニティ醸成



支援者マッチング機能

本トライアルを通して、以下の事項に取り組むことで成果目標を達成する。

- 1.本プロジェクトで提案するサービスが視覚障害者にとって有効であるかの効果検証
- 2.持続的に運用していけるような体制をつくば市との運用実験を通して構築
- 3.関連するつくば市の企業とコミュニティを構築できるかどうかの調査
- 4.アクセシビリティ支援の会社が金銭的に自走するためのビジネスモデルを構築

期待される効果・実現する未来社会

我々が当事者とともに行う、実環境で使いやすいアプリケーションの開発と持続可能な支援をするためのコミュニティ構築は次世代の困難を抱える人々を支える重要なきっかけになることが期待され、つくば市が世界から注目されるアクセシビリティ発展都市になる助けになることを目指す。我々のミッションは困難を抱える人の選択を一つでも多くすることであり、本プロジェクトの成長とともに視覚障害者を支援するサービスが豊富になり、視覚障害者が十分な選択肢から選ぶことのできる社会を実現したい。